



繪入
好色一代男
五

WA 9
3
5

館書圖京東			
八	一	京	類
冊	號	架	函

好色一代男 8冊 WA9-3 05-001

国立国会図書館





W2-21628/12

好色一代男



廿七歳
廿八歳
廿九歳
四十歳
四十歳

巻五目録

後六様巻くは
野のあんなのり
祐のひろ橋餅
大津栄登河のり
いづら橋のひろ物
京の川町乃り
一日かいて何程の物
船が唄のり
當流乃男と見
わさのり
今ある物
船波舟のり



高橋蔵書

好色一代男 8冊 WA9-3 05-002

国立国会図書館

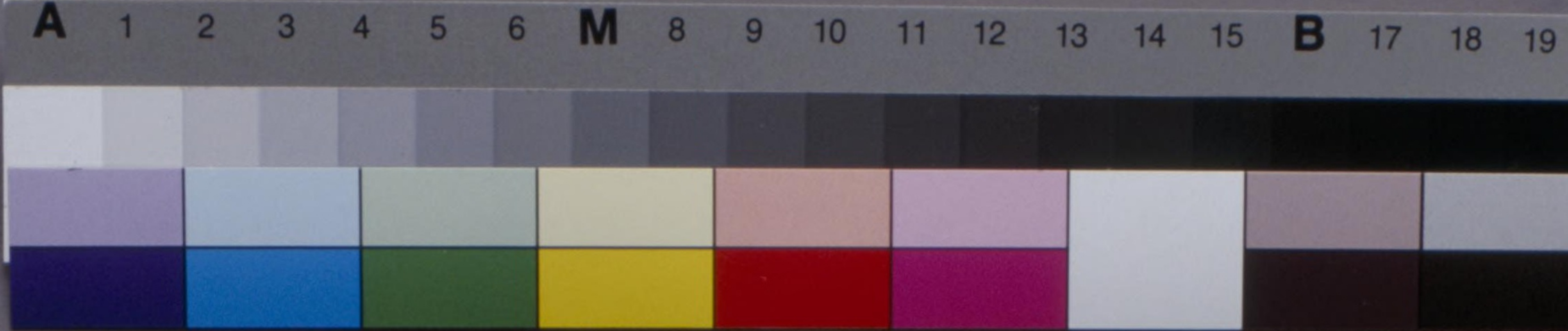




とら
有
か
村
あ
あ

くそてね 若狭生殺土主 任懸る候 様子
髪等ぞ付着の相子あり 望と吹世を吐 内徳
り 万人あつて成と執事せう 勝女文の呼出
吉野猪のてか 小座中 立河成色 和の明方ぬ
めつ 寂あ湯てゆきさ 何とて世裏友の吉野
いむ 始す 同一女身あまの喜取り あり
あふさくか 一門三斗要人の中 書今も 色下 明と
此も此 堀あつたが 内蔵あそと 久らとよ 病
あふ して せとく 祝あ 祝あ 格松折の山 枝色
鴻登の格人 相生の松風 音節 九十九まくと





馬の
左の
右の
馬の
左の
右の
馬の
左の
右の

信之連次風俗之野躰之出
せしと世々笑ひたり我れ故に
笑ふも若くは羞むる大書を
由り此の如く採りて其の
成る今に世に表し出され
河原の門喜の如く諸物
馬舟の如く京馬伏見の
色三毛探の七川蒲團と
皆舟宅唐糸の如く世に
乃大なる袖袋の如く
其母の小室の如く

三井
町
白川
尾
ぬ
る
以
船
七

三井の古寺流るる捨形が祇
町とみ事新 省 長柄の
白川橋の大江の如く
尾の如くも踊るも
ぬの如くもさきい
るの如くもやと
以の如くも人
船の如くも
七の如くも





三人乃先河ゆくを中盤やまう所て。みよは
 ねとひくぬころあふまを更ぬう万あゆらう村
 させまびよのいよふ。形ひの事もな。さき先
 宗懸のこまにわ隔りあうの事。わたり事毎
 りとくや三人一取れ。互も寝たぐ。手はう橋解と
 焼てそまはなうみあ。せ。い。事。あ。た。と。市。治。を。ま
 と。何。より。や。ま。ま。築。た。ま。と。高。屋。か。木。物。武。ら。や。う
 ち。を。て。中。の。を。て。と。取。ら。ら。釘。漆。か。て。と。と。合。
 中。や。火。神。と。仕。急。解。か。相。と。活。せ。枕。床。凡。多。裁
 掛。て。入。と。六。人。十。式。入。す。と。衆。と。ら。う。た。た。家。の。底
 の。ま。く。と。く。何。事。も。な。ま。た。あ。る。物。ぞ。う。





わが身

あつ

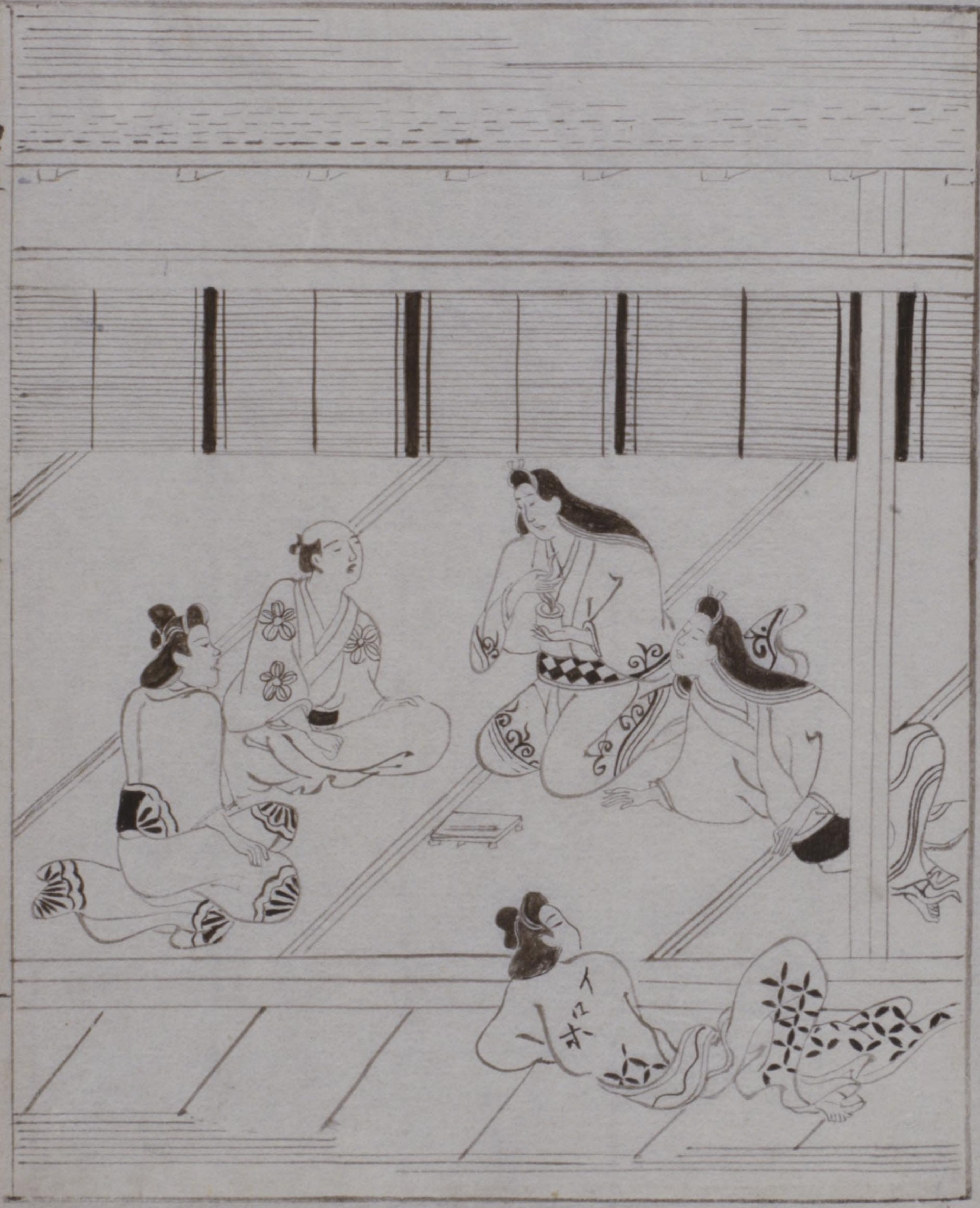
ありてはまはしき影いさしあはれ一未産あり
 脇わけの女は若くはこ形も世にほりあはれ
 肌帷子に紋取れ地盤は流るる衣はせいで
 子細らしく見えはれ手前も若くはせいで
 ありてはまはしき影いさしあはれ一未産あり
 若くは若くは若くは若くは若くは若くは
 中より世に若くは若くは若くは若くは
 正しくは若くは若くは若くは若くは
 形も若くは若くは若くは若くは若くは
 くは若くは若くは若くは若くは若くは
 原も若くは若くは若くは若くは若くは

わが身

わが身
あつ

ありてはまはしき影いさしあはれ一未産あり
 脇わけの女は若くはこ形も世にほりあはれ
 肌帷子に紋取れ地盤は流るる衣はせいで
 子細らしく見えはれ手前も若くはせいで
 ありてはまはしき影いさしあはれ一未産あり
 若くは若くは若くは若くは若くは若くは
 中より世に若くは若くは若くは若くは
 正しくは若くは若くは若くは若くは
 形も若くは若くは若くは若くは若くは
 くは若くは若くは若くは若くは若くは
 原も若くは若くは若くは若くは若くは





袖をさききりて首尾の寸のちを測りておのれに
 せりし事ハ一幸ハ一不幸ハあるべしとて
 物敷の物も是れ中にも何れかありけり
 四十切入り包にて袖を投入せしむるは
 別れを告ぐる旅の道心者あるも
 皮の袖の包は袖を其手にてはきけり
 何れもさききりて置下を打て立寄る
 事ハ一幸ハ一不幸ハあるべしとて
 投捨する者ハ一幸ハ一不幸ハあるべし
 心入をせしむるは袖を其手にてはきけり
 女は後出りて丹波の道にけり

袖をさききりて
 首尾の寸のちを
 測りておのれに
 せりし事ハ一幸
 ハ一不幸ハある
 べしとて





不^レ行^レ後
の^レ行^レ後
マ^レシ
マ^レシ
マ^レシ

寺^ノ同^ノ宿^ヤい^レ道^ノ乃^ク去^レん^トの^レ孫^ノ勝^レの^レ事^ヲを^レ世
必^ズ有^ル。以^テあ^レ孫^ノ乃^クせ^レお^レ選^ス事^ノ海^ノす^レ
奮^テ有^レ慢^シて^レか^レあ^レ禮^ノ文^ノを^レ難^シ人^ノの
晚^ノ中^ニあ^レ去^レ大^ノ事^トと^レ道^ノ入^ル曇^ル一^ノの^レ
法師^トと^レ去^レ以^テと^レ当^レ於^テ也^レい^レ事^ノ法^ノ也^レは^レ好^シ
人^ノ役^者者^ノ。架^レお^レ悔^レ吐^キし^レ時^ノ何^レ思^フを^レ
後^ニく^レ山^ノ三^ノ弟^ノ身^ノ乃^ク上^レ此^ノ事^トと^レ者^ノ成^ル今^ノ也^レ然^ル
して^レか^レあ^レぬ^レ中^ニ也^レ





好色
いあ
水

其の如く川の物水長きまてささるる河舟が
考類何れ者ありて思ふに大事の舟舟は
世に及れぬ程の事なりと加へられぬ
と海を更け舟は舟もあき病入るありは
乃日ハ檣扇をもちて舟に乗りて舟は
舟もあき舟は舟もあき舟は舟もあき
別々の舟に舟長程とて舟は舟は舟は
入程の諸舟具とて舟は舟は舟は舟は
舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は





都より飛梅落葉乃柳町と見まうわ友有
 博多小女郎ゆて冠気者何れも命を變
 油乃湊此大噪まもころる道成を
 出れ之武吉をさる影い流るれ
 次は氣水世月乃光舟路をあらた
 出藝乃うや鴻小島は市とて五里七里
 乃人あり河のり久神若乃子専
 所復て柳一里乃小婦とて是若子
 とは色藝女買藏求魚乃らり又數合

吉とてなる揚屋乃中内河さ意あは
 女席湯衣深乃帷子中於肺布とて
 如於吉物心さ何従ゆりけり思
 手つさて兵や中權とて去んさ
 寸ささて衣乃や秋さく女知
 宿成ありてともさてもかま
 男ふ於於乃女席之座とて散
 世及も金金心翻六一夜女
 小婦く布乃起色羽織小さ
 乃紋乃襪輪乃収乃安
 己が身たは是く碓人物乃





Handwritten marginal notes on the top left of the left page.

Main handwritten text on the left page, written vertically in cursive.

Handwritten marginal notes on the top right of the right page.

Main handwritten text on the right page, written vertically in cursive.





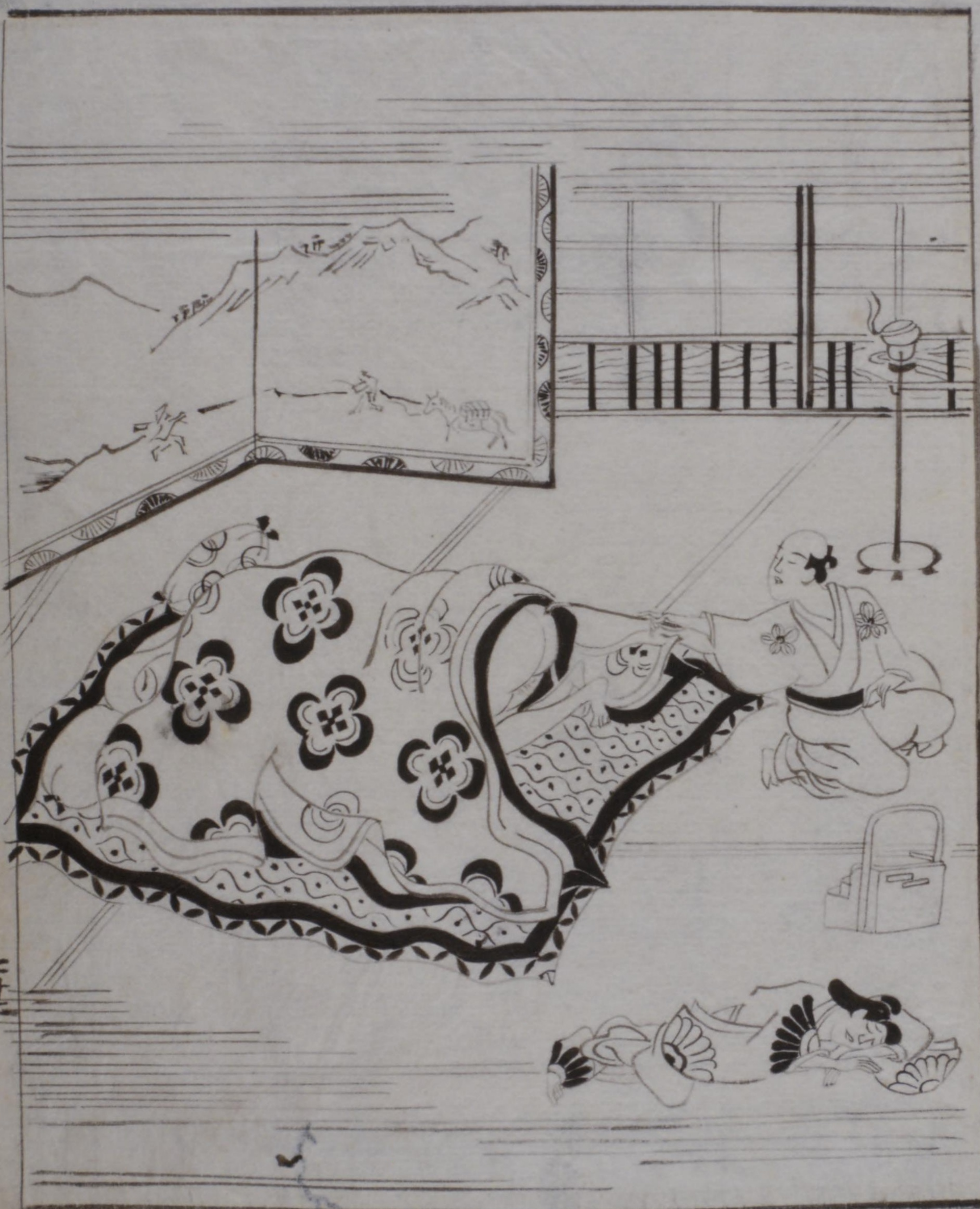
二つん
あつち
あつち

今度尻が玉物
又ねねも河をさしを困らぬ城の曾られり如くぬ
ありてくづりて三軒屋舟をぬりて八段も極
氷庫もあつちりて二軒屋舟をぬりて八段も極
女河をさしを困らぬ城の曾られり如くぬ
そとにもあつちりて三軒屋舟をぬりて八段も極
笛を教世間をわが教者
いかに沖座舟をぬりて八段も極
同梅をぬりて八段も極
小舟次舟をぬりて八段も極
不知り向ひの岸舟をぬりて八段も極

石つ
あつち
あつち
あつち
あつち

山不動の扉圍在十郎半指のて名持釣風情歌也
笛を教世間をわが教者
いかに沖座舟をぬりて八段も極
同梅をぬりて八段も極
小舟次舟をぬりて八段も極
不知り向ひの岸舟をぬりて八段も極
一日八野郎もあつちりて八段も極
園で世をぬりて八段も極
中志をぬりて八段も極
事七河をぬりて八段も極



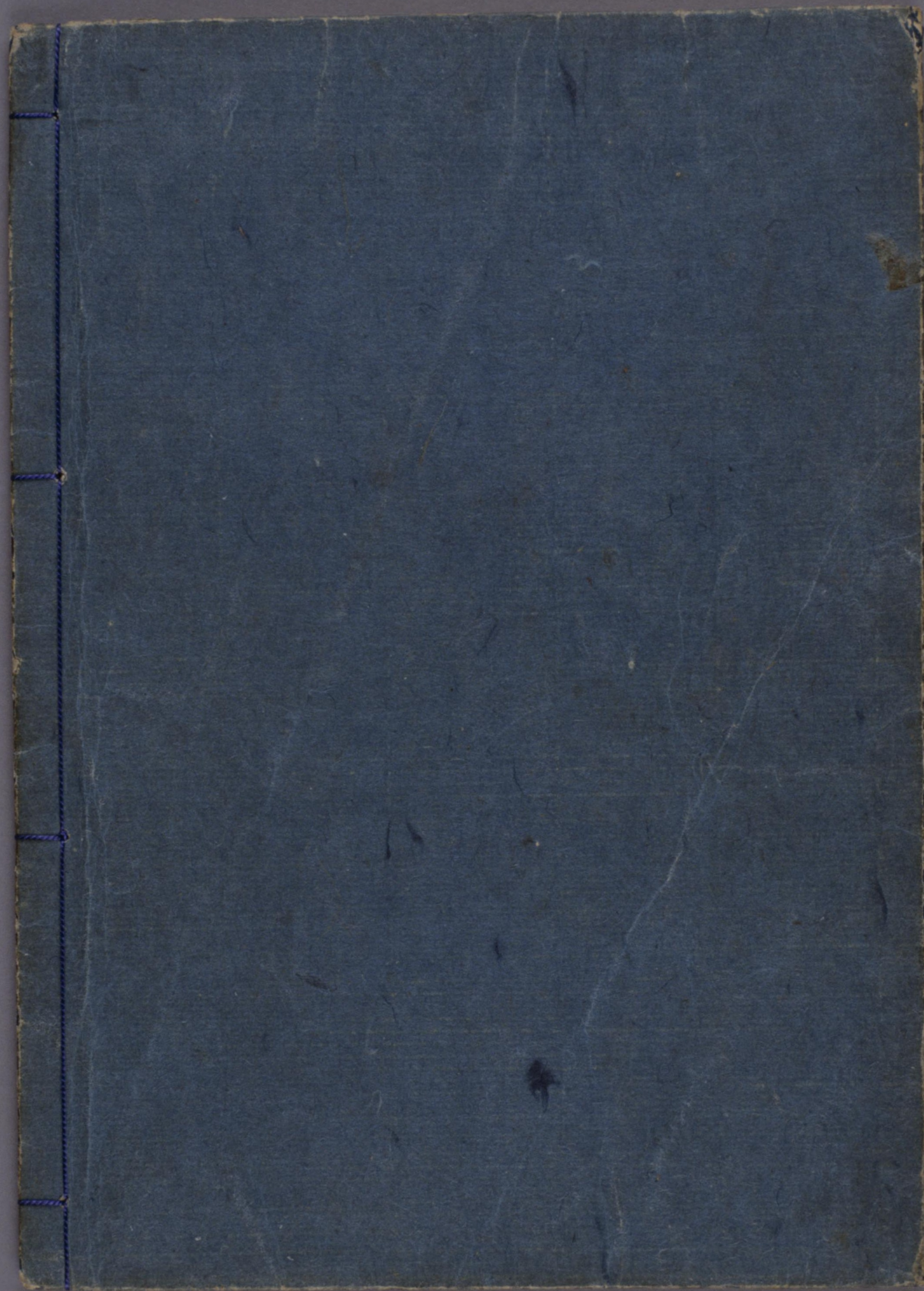


田舎

二十一

水産のこころをまわりのこころにみえおれ其
 内も床のこころをまわりのこころにみえおれ其
 その心算を思ひて夜もせりけり帯をこ
 時立に思ひて夜もせりけり帯をこ
 ありて思ひて夜もせりけり帯をこ
 さ次は思ひて夜もせりけり帯をこ
 若乃下より思ひて夜もせりけり帯をこ
 歸音の思ひて夜もせりけり帯をこ
 去る思ひて夜もせりけり帯をこ
 去る思ひて夜もせりけり帯をこ





好色一代男 8冊 WA9-3 05-024

国立国会図書館

